

安全だより

第 47 号

◆発行
令和元年 9 月 20 日



公益社団法人
下松市シルバー人材センター
安全委員会

全国統一安全スローガン

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

『油断大敵』『猿も木から落ちる』『転ばぬ先の杖』『後悔先に立たず』

お馴染みのことわざです。私たちの周りに起こるちょっとした事故やケガは、その大半が注意力の散漫や注意力の欠如が原因になっています。「このくらいは大丈夫だろう」「いつもやっていることだから…」といった油断が事故やケガにつながります。

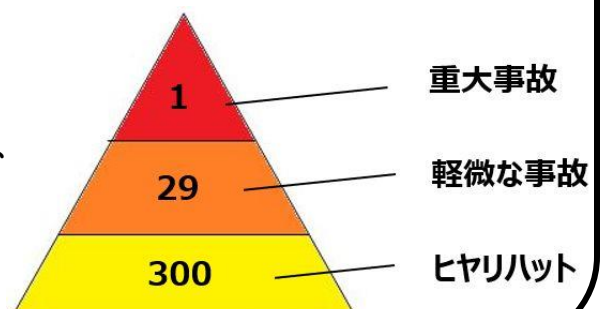
安全に関する規定や手順は事故やケガを防止するための重要な指針です。様々な作業に当たり、状況によってはこの規定や手順をそのまま実施する事は困難な場合もあります。しかし、この規定・手順を頭に思い浮かべるだけで注意力や集中力を喚起できると思います。時期的にもこれから暑い季節になります。十分な休憩と水分補給に心がけ、注意力・集中力を切らさないようにして、事故やケガのない作業を実施しましょう!!

年をとると、頭の中で思い描いているようには手足は動かないことがあります。車止めのブロックに躓いたり、楽にまたげるはずのロープに引っかかったり、斜面で踏ん張れなかったり、脚立の上でバランスを崩したり、ちょっとした事でヒヤリとする事は多々あります。もう若くはないのです。日々の行動はゆっくりと慎重に「ああすればよかった」「こうすればよかった」と後悔しないように行動しましょう。

皆様すべての人が就業中にヒヤッしたり、ハッしたりということは、数多くあると思います。「ヒヤリ・ハット体験」が安全を築く宝と言われます。みんなにヒヤリ・ハット体験の状況等を迅速に報告し、共有化・改善する事を繰り返すことで、「事故ゼロ」を継続しましょう

ハインリッヒの法則

1 件の重大事故発生の裏には、29 件の軽微な事故、300 件のヒヤリ・ハット体験がある。



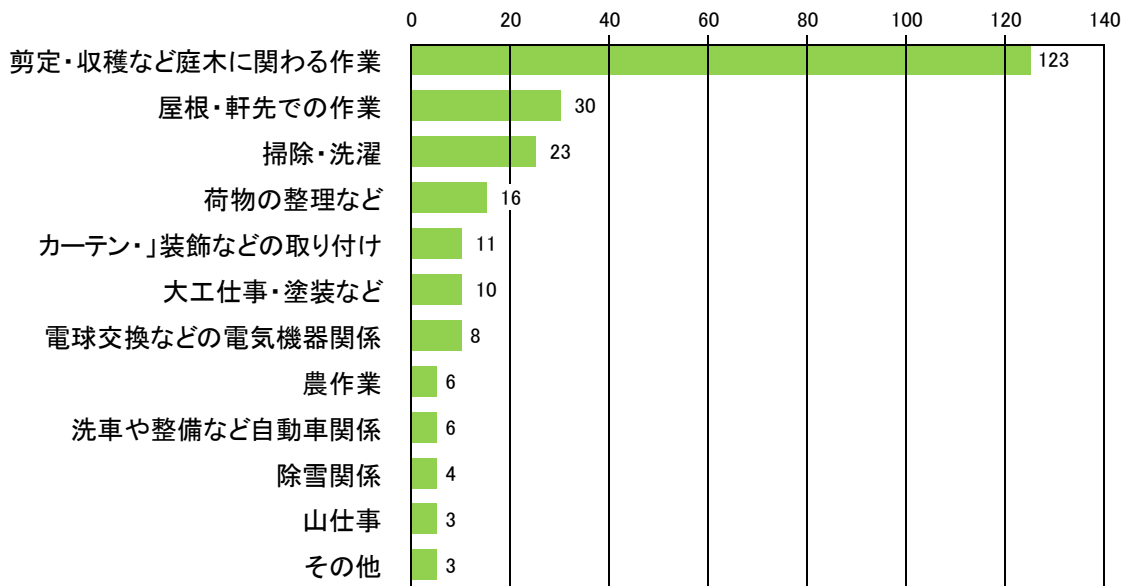
事故報告

賠償事故	米泉湖公園前の道路
草刈	事故内容 飛び石による車の塗装損傷 ネットの展開が追い付かず、草刈をしていた会員の不注意
賠償事故	下松小学校
草刈	事故内容 刈払機による、給水パイプの破損 草が多く確認できなかった。回転数をあげて作業していた

作業時の脚立、はしごからの転落事故について

国民生活センターの調査によると、転落事故の半数以上が60歳～70歳代の高齢者となっており、一般家庭における事故時の具体的な内容は次の様になっているそうです。

転落事故時の具体的な作業内容(全件数243件)



シルバーでの作業はもちろんですが、家庭での作業も自分の体力を過信しないで、安全な方法での作業をしたいものですね。

===車はたった2秒でこれだけ進む===

「チラッと見ただけ」2秒のわき見で下表のとおり車は進み、歩行者、前方の車両等の発見が遅れ運転操作が間に合わず重大事故に繋がります。運転中のわき見運転は絶対やめましょう

スピード (km/h)	20	30	40	50	60
停止距離(m)	11	17	22	28	33

(出典 警察庁ホームページ)

なお、車の停止距離は、スピード・危険を感じての反応時間、車の重さ、タイヤの摩耗状況・天候等によりさらに、プラスされます。

“災害は 慣れと手抜きと 油断から”

どんな資格を持っているようが、どんな技術をもっているようが、何度も同じことを繰り返し行っていると、つい近道をしたり、怖さが半減したりして大きな落とし穴に落ちてしまいます。事前に穴の埋め戻しができるように、常にこの標語を思い出しています。



痛いよー
わかっちゃっ
たのになー
失敗したなー

3つの約束

1. 私たちの周りには常に危険が潜んでいます。日頃からKY感覚を養い、災害を未然に防ぐよう日々心掛けてください。
2. 仕事仲間の安全に配慮して、不安全な行動を指摘するとともに、その指摘に感謝する気持ちが持てるという相互指摘の風土を築き上げてください。
3. いつもやっていることでも、少しおかしいなと思うことがあれば、だれかに相談し、解決してから作業に取り掛かってください

安全大会を終えて

災害防止は、組織力によって培うことが必要になります。無事故が続くと、安全意識や安全運動は、ややもすると停滞しがちになってきます。その「大丈夫」という固定概念が怖いのです。今回の大会では、みなさんの研修に対する意欲的な態度と、また全員で唱和した力強い「安全宣言」は、これからの安全意識高揚に大きな成果を得たと確信しています。